

令和7年度第3回防府警察署協議会会議録

開催日時	令和8年2月20日（金） 午後2時30分から午後4時30分までの間	
開催場所	防府警察署3階 講堂	
出席者	公安委員会	野村公安委員長
	委員	池永委員、杉本委員、佐戸委員、藤田委員、山下委員、 松本委員、島田委員、桃井委員 計 8人
	警察	署長、副署長、主幹、警務課長、警察安全相談課長、 生活安全課長、地域課長、刑事第二課長、交通課長、 警備課長 計10人
議題	1 業務説明 2 大規模自然災害に備えた諸対策の推進	
<p>1 会長挨拶</p> <p>本日は、お忙しい中、各委員、野村公安委員長にご出席いただき感謝申し上げます。</p> <p>今回の諮問事項は、「大規模自然災害に備えた諸対策の推進」という議題であるが忌憚のない意見をいただき、有意義な会議にしたいと考えている。</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>（省略）</p> <p>3 公安委員長挨拶</p> <p>防府警察署では過去に事件捜査中の警察官が犯人から刺され、亡くなられるという殉職事案があったと聞き、先ほどその慰霊碑に手を合わせてきた。</p> <p>本日の協議事項は「大規模自然災害に備えた諸対策の推進」であるが、県内では、過去に水害による被害が多く発生している。</p> <p>警察としては、殉職・受傷事故防止を図りつつ、こうした災害が発生した時に、どのように活動し、対応しなければならないのか、日ごろからよく検討しておくなければならない。</p> <p>本日は、皆様方のように地域の事情などが分かる方々から、忌憚のないご意見をいただきたい。</p>		

4 業務推進状況の説明（署長）

令和7年中の業務推進状況について、以下の項目に沿ってパワーポイントで説明した。

- 刑法犯認知状況
- 犯罪抑止対策の推進状況
- 少年非行の現況
- 交通事故抑止対策の推進状況
- 地域安全活動の推進状況

5 前回の諮問事項「情勢に応じた合理的な交通規制の実施及び良好な自転車交通秩序実現のための取組」に関する対応状況の報告（交通課長）

（省略）

6 諮問事項説明「大規模自然災害に備えた諸対策の推進」（警備課長）

以下の項目に沿ってパワーポイントで説明を行った。

- 近年の大規模自然災害
 - ア 能登半島地震
 - イ 県内の豪雨災害
 - ウ 南海トラフ巨大地震分析（政府発表）
- 管内の特徴
 - ア 過去の自然災害発生状況
 - イ 災害危険個所（防府警察署管内のアンダーパス）
- 県警察の主な対策
 - ア 災害対処能力の向上
 - イ 関係機関との連携強化
 - ウ 地域の防災意識高揚

7 協議

（委員）

防府市では2009年7月21日の豪雨災害の教訓を忘れず安全な街づくりを推進するため、毎年7月21日を「防府市民防災の日」と定めている。

自治体を中心とした防災訓練では、台風・地震・河川氾濫などテーマを決め、安否確認などでは各戸訪問確認や旗を立てて無事を知らせるなど、実戦的な訓練を行っている。

訓練の後には、自治会長、民生委員、防災士等が集まり、各種資機材の点検、非常食の試食など、反省会を行って有事の際に役立つよう検討を繰り返している。

こういった地区での訓練に、小学校や中学校、警察署や消防署も加わり、合同訓練とすればいいのではないか。

（委員）

災害が発生した際には、我々一人一人の日頃からの心構えが重要になってくると思う。

警察や消防、自衛隊は、災害発生後の対応に当たるものであり、我々住民は、発生前を想定して、避難場所の確認や家族構成を考え準備しておくべき物など、平時の備えが重要だと思う。

警察や自治体は、過去の災害事例に基づき、日ごろから何を用意しておくべきかを、一人一人が危機感をもって自分のこととして考えられるよう、多角的な教養を行っていくことが大事だと思う。

(委員)

子供と一緒に、パトカーや消防車、救急車が展示されたイベントのほか、防災訓練にも参加したことがある。

その時のことが子供たちの印象に深く残っているようで、「自分たちに何かあったときは警察官や消防隊員が助けに来てくれる」という安心感に加え「自分たちももっと防災に意識を持たないといけない」という前向きな意識へと変わるのを感じた。

自治体で行われている防災訓練に、以前はあまり積極的でなかった子供らも、地区内の危険箇所や避難箇所、災害が起こる前に準備する物などを知ることにより、理解度が高まったようで、防災をより身近に感じるようになった。

こういった各種イベントや防災訓練では、より身近で具体的な話をするにより、多くの方に防災という意識が広がっていくのではないかと感じた。

(委員)

企業単位での防災訓練という点では、地区町村の防災の日と同じように、年に一度会社としての「防災の日」を設けた訓練を実施している。

過去に起こった火災や事故を風化させず、そして今後の対策という面から、当時の資料や体験者の話を見聞きすることで、繰り返しの教育を実施し、未然防止を図っている。

地域の災害対策も同じことで、過去の事例を風化させず、地道な訓練を継続実施し、いかに本番に備えるかということが大切である。

また、東日本大震災を体験した感想としては、被災地への物流が寸断され物資を集めても、それが被災者の手に届かないということがあった。

こういった経験を踏まえ現地対策だけでなく、被災地へと繋がる物資運搬経路の確保など、外周における諸対策も検討する必要があると思う。

(委員)

防府市で発生した過去の自然災害で私自身被災した経験がある。

当時、道路は寸断され、最初は自分たちで道路の規制や移動のための通路を確保したり、高齢者の安否確認を行ったりと災害発生時には地域住民が協力して対処する重要性を強く感じた。

また、こういった災害が職場にいるときに発生したらどうするのか、職場発生時における避難先や危険箇所の把握なども必要だと感じた。

防災訓練の一例として、年1回、地域住民や中学生参加で実施している。

中学生は避難場所での生活を実体験するため、段ボールを敷いて実際に寝泊まりしてみるなども行って見た。

(委員)

一般的に災害弱者は子供と高齢者であるが、小さな子供の場合は、集団下校や目が届く家の周りなど、行動範囲が狭くある程度居場所が限られ把握しやすいところがある。一方で中学生や高校生は行動範囲が広がるので、そういった点では中高生が災害弱者となり得ることもあるかと思う。

こういったことも想定して、日頃から災害発生時の連絡手段など家庭内で話し合っておくよう指導しておくことが大切である。

高齢者については、安否確認や歩行困難な方の搬送などが必要となるので、地区内にある高齢施設と事前に協議し、施設車両での避難送迎や一時的な施設内避難の受け入れなど、その地区に応じた、より具体的な事前対策が必要だと感じる。

(委員)

孫や子供を通じて防災を学んだり、どの年齢層にも浸透するような工夫した防災訓練がいいと思う。

その中で、災害時の持ち出し品や重要度の高い防災グッズ、ちょっとしたアイデアで防災グッズとして利用できるものなど、クイズ形式やゲーム感覚で覚えていけるような防災教育も効果的であると思う。

(委員)

冬の寒い時に災害が発生し停電した場合、着込んだりストーブで暖を取ることができるが、夏の暑い時期であれば、冷房が使えずに熱中症など二次災害の発生もある。夏の災害発生を想定した対策もあるのか。

(警備課長)

避難場所の暑熱対策については、市や県、関係機関が連携して対応することとなると思う。

場合によっては、自衛隊派遣ということにもなってくると思う。

例えば、バスを冷房室として利用するのも一つの方法だと思う。

8 公安委員長講評

いつどこで発生するか分からない大規模災害に対してどのように対応するかは、大変難しい問題であり対応に関して警察にも限界がある。

だからこそ、地域の皆様方にご協力いただき対応していかなくてはならない。

協議の中で「風化させない」という言葉があったが、私自身も災害に対して備えなければならないということは十分わかっているが、気持ちの中でも徐々に災害の記憶が薄れてしまっていると感じることがある。

日頃からの訓練や教育によって意識を深めていくことが大切だと感じた。

9 配布資料

- 業務説明資料
- 諮問事項資料